

---

# 鏡の向こう

昧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鏡の向こう

### 【Nコード】

N7040C

### 【作者名】

昧

### 【あらすじ】

ある時双子の妹は不思議な夢を見てしまいますそれは今まで少女が知らなかった残酷な夢・・・そして謎の人物に告げられる「この子たちを解放して」意味不明なお告げに後日双子の兄弟は迷い込む・・・  
・鏡の向こうの呪縛の世界へ

## 第0偏 夢の始まり

鏡の向こう

深夜1時48分 - -

少女は部屋の片隅に置いてある2段ベッドの下で気持ちよさそうに眠っていた

その上では双子の兄とも見える少年が同じく熟睡中・・・

三日月の夜 - -

窓の外では風が唸るような音たててふいていくのが分かった

ふと無意識に眠ってる少女は目を覚ます

ゆっくりベッドから起き上がり半分寝ぼけた状態で目をこすりながら枕もとにある時計を見ていた

「なんだ・・・」

まだこんな時間しかたってないや・・・

兄ちゃんも寝てるみたいだし・・・」

そう言って少女は

再びベッドに横になり眠りのなかへ・・・

いけなかった

2度寝なんていつもしているはずなのになんで寝れない？

自分自身に疑問しながらなんども寝付こうと寝返りをうつたり目を閉じて瞼の奥の暗闇を見つめたりしていたが・・・

どうも寝れない

- こんなの不自然だ  
だつてあたし毎日

学校に行くとお昼寝時間が欲しいとか言つてたり授業サボって保健  
室で寝てたり・・・そこまでのあたしが眠りを拒絶するなんて・・・  
！？

後半完全に寝ぼけた感覚で自分でも何言ってるのか理解出来なくな  
つてきた・・・

部屋のなかは薄暗く闇のなかに放りこまれたようだった  
いつもなら暗い所が嫌いな少女だが  
今晚はなにか違う

すると急に睡魔が復活して少女は夢へと導かれていく

## 第0偏 夢の始まり（後書き）

ここまで読んでくれる人に感謝します

このお話は昔

友達と合作で書いていたマンガを編集して載せていこうと思います

かなり飽きっぽい私ですがどうか今度こそは頑張ってみます！

## 第1偏 灰色の世界で（前書き）

後半に多少グロテスク？な表現があるのでご了承ください…

## 第1偏 灰色の世界で

体が軽い・・・

宙を漂う木葉のようそれとも巢立ちして大空へはばたく小鳥のようにか

どちらにせよ

あたしは今灰色の  
世界のなかにいる

飛んでいる感覚があつてただけど決して心地良いわけじゃなくて・・・  
複雑

夢のなかにいるのはなんとなく実感するどこか霧がかつて  
はつきりしない・・・だが さつきから

「登場人物」がいない  
自分以外 誰も

普通 友達でも家族でも親戚でもはたまたテレビで見た人くらい頭  
に残る人物が出てくるはずが

飛んで迷路ごとく

まよったまま・・・

いつの日かの

幼い頃に公園で友達とかくれんぼで遊んだことがふいに蘇ってきた  
あたしはいつも才二役で隠れた人を探す  
でも いつも心配になつてしまう・・・

友達はいつまでも  
見つけてもらえず  
呆れておいて帰っちゃったのかな・  
なんて  
懐かしいな

ぼやけたこんな場所から早く抜け出たくてあたしは飛ぶ速度を変  
えた  
勿論 無意識状態…

ふと 目の前に  
木製の古い扉が  
宙に浮いてるよう  
少女を待っていたようにそこにあった

感覚も無く少女は  
扉をゆっくり開ける

- -そこで空を飛んでいるような心地は直ぐに消えた…

扉の外側に

見る限りの死体…

それらは体の顔、頭、腕、脚、そして一番出血が酷いのは  
溢れんばかりの赤の液に染まった

心臓部分…

しかもその死体は

ほとんどが自分と同じ年齢の少女ばかり

周りに微かに炎の

燃えたあとが残る

・ ・ 火事？

それにしては死に方がかなり惨い



その時 扉の外側から声がした・

「・・・のた め

か・・・ そう、に」

「彼は・・・

も・・・ かえ -

・・・ おわった・・・」

「・・・か

お・・・み」

女性なのか男性か  
子供か大人かさえ  
なにか音が混じり  
話も聞こえない

「・・・だれ？」

心で思ったつもりが結構大きな声で  
呟いてしまった…

「やばい！ と思ったがそのかわり  
また 別の声・・・

「さようなら・・・  
・・・ か・・・」

## 第2偏 映像の少女

「・・・？」

今度は はっきりと  
耳に届いた

・・・女の人の声

それはとても優しく眠りにつく赤ん坊をずっと傍で歌い続ける母親  
の子守歌のようで少女はどうしてもその声の正体が見たくなってつい  
扉の外側に足を  
踏み入れてしまった・・・

ばぁん と

何かがはねたような弾ける音がした・・・  
とたんに少女は

踏み入れたその時にがくんと挫いた

一瞬見えたのは  
落ちる間際にこちらを向いた人影・・・

少女は底なしの闇に放り込まれ唯流れに身を任せている  
あの死体と化した  
若い少女たちの事  
どうして

「死」というたかちで人生を閉ざしてしまったのか  
・・・戦争かな

それとも必然に巻き込まれたテロ？  
はっきり少女には  
なんの関係もないものばかりが頭に思い浮かんだ

悪夢なら早く覚めてほしいな

視界が落ちていくのですごく速くいろんな風景が通り過ぎていく・

- -

・・・風景？

そこでやっと落ちているのは闇の中ではなかったと気づく

カメラで写された映像が機械音<sup>ノイズ</sup>混じりに流れていく

だが その映像は随分年代物で使い古されたビデオのように途切れとぎれでいまいち見ずらいものがあったが少女は何も気にせず落ちていくのを忘れて見つめていた

空は赤色に染まり

沢山の母親が我が子の手を引いて去っていくシルエットがその空のなかに黒く映し出されていた

おそらく公園で遊んでいた親子が帰っていく場面なんだろう

「平和」という情景が思い浮かぶだろうがこの映像のカメラはブランコにひとり揺れている幼い少女にクローズアップされたのだった

誰かむかえにくると思って待っているのだろうか？

だか 見た限り少女の周りの親子はみなそれぞれ家路へと帰っていた  
った

少女のむかえはこない

唯 幸せそうな笑顔

めい いっぱい振りまく子供とそれを温かく見守る母を睨むような瞳

をしていた

ふと 映像に白文字で字幕が薄く浮かび上がった

- おねいちゃん

- どうしてきてくれないの？

- わたし ずっとまっていたのに

- どこにいるの？

- わたし わすれたの？

字幕はどうやらひとり残る少女の心の孤独を感じさせる言葉が並んでいる

でもこれを見ていた夢に迷い込んだ少女は  
「他人事」と見過ごせなかったのだ

どうして かは

自分自身も解らない共感した、なんて事なかったのに -

映像のは少しずつ進んでいく

沈みかけている夕日徐々に闇に隠れる公園のブランコ

映像の少女はまだ

むかえを待っているとも見える

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7040c/>

---

鏡の向こう

2011年1月15日21時44分発行